

## 香川県子宮頸がん検診の精度管理のための技術的指針

第1	目的	1
第2	検診対象者	1
第3	実施回数	1
第4	検診計画の策定	1
第5	受診勧奨	1
第6	検診方法等	2
第7	検診結果の指導区分	<del>23</del>
第8	検診結果の報告及び通知	3
第9	検診記録の整備及び精密検査結果の把握	3
第10	事業評価	<del>34</del>
第11	検診実施機関	4
第12	精密検査等	<del>45</del>
	(別紙1) 仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目	6
	(別紙2) 細胞診結果(ベセスダシステム)	9
	(様式1号) 子宮頸がん検診事業計画書	11
	(様式2号) 子宮頸がん検診問診票	12
	(様式3号) 子宮頸がん検診受診者名簿	13
	(様式4号) 子宮頸がん検診結果記録票	14
	(様式5号) 子宮頸がん検診結果通知書	15
	(様式6-1号) 子宮頸部精密検査依頼書	16
	<u>(様式6-2号)</u> 子宮頸部精密検査結果報告書(検診実施機関用)	17
	<u>(様式6-3号)</u> 子宮頸部精密検査結果報告書(市町用)	18
	(様式7-1号) 子宮頸がん検診結果集計表(検診機関別)	19
	(様式7-2号) 子宮頸がん検診結果集計表(総合)	20
	<del>(参考1) 子宮頸がん検診チェックリスト(検診実施機関用)</del>	<del>21</del>
	<del>(参考2) 子宮頸がん検診チェックリスト(市区町村用)</del>	<del>24</del>
	<del>(参考3) 子宮頸がん検診チェックリスト(都道府県用)</del>	<del>27</del>

※参考1は国立研究開発法人国立がん研究センター「事業評価のためのチェックリスト」(令和2年改訂版)から、参考2は同チェックリスト(平成31年改訂版)から、参考3は同チェックリスト(平成28年改訂版)から引用

# 香川県子宮頸がん検診の精度管理のための技術的指針

## 第1 目的

この指針は、すべての市町において、国の指針等に基づいた科学的に効果の明らかな方法で、子宮頸がん検診及びその精度管理が実施され、さらには事業評価や住民への受診勧奨などが適切に行われることにより、県民のがんの早期発見に資することを目的とする。

## 第2 検診対象者

子宮頸がん検診の対象者は、当該市町に居住地を有する20歳以上の女性とする。

なお、受診を特に推奨する者を20歳以上69歳以下の者とする。ただし、受診を特に推奨する者に該当しない70歳以上の者に対しても、受診の機会を提供するよう留意すること。

## 第3 実施回数

子宮頸がん検診は、原則として同一人について2年に1回実施する。なお、受診機会は、必ず毎年度設けることとする。

## 第4 検診計画の策定

関係機関と十分協議の上、「子宮頸がん検診事業計画書」（様式1号）等を作成する。なお、計画書の作成に際しては、次の事項に留意する。

- 1 「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」（別紙1）を参考として検診実施機関を決定し、下記の事項等について十分協議を行う。
- 2 検診対象者を住民基本台帳等で把握する。
- 3 検診実施期間、予定人数、実施場所を決定する。
- 4 検診の周知方法とその時期を決定する。
- 5 検診に必要な帳票類（様式2号・4号・5号・6号）を作成する。
- 6 検診実施後の結果集計等を行う（「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式3号）等を利用する。）。

## 第5 受診勧奨

市町は、子宮頸がん及び子宮体がん子宮頸がん検診に関する正しい知識を普及啓発するとともに、対象者に受診勧奨を行う。対象者のうち、受診を特に推奨する者でこれまでに子宮頸がん検診を受診したことがない者に対しては、積極的な受診勧奨を行う。

受診勧奨は、受診率の向上及び精度管理の観点から、個別通知によることが望ましく、次の事項に留意する。

- 1 受診者の拡大に努めるとともに、受診者の固定化を防止し、検診の効果の向上を図る。
- 2 罹患率や有病率などを参考とし、子宮頸がん対策上重要と考えられる年齢層の受診を促進する。

- 3 他のがん検診受診機会の有無を確認するなど、対象者を正確に把握する。
- 4 検診対象者のリストを作成し、がん検診受診状況等を台帳等により管理する。
- 5 がん検診の対象者自身が、がん検診の利益・不利益を考慮した上で受診を検討できるよう、受診勧奨に当たっては、対象者に対してがん検診の利益・不利益の説明を行うこと。ただし、不利益の説明をするときは、指針に定めるがん検診の受診率低下を招かないよう、伝え方に留意すること。

<がん検診の利益・不利益について>

(利益の例)

- ・検診受診後のがんの早期発見・早期治療による死亡率減少効果があること
- ・早期に発見できるために侵襲の軽度な治療で済むこと
- ・がん検診で「異常なし」と判定された場合に安心感を得られること等

(不利益の例)

- ・偽陰性、偽陽性（また、その判定結果を受けて不安を生じることや、結果として不必要な精密検査を受ける場合があること。）、過剰診断、偶発症等

## 第6 検診方法等

検診項目は、問診、視診、子宮頸部の細胞診とする。必要に応じて内診、コルポスコープ検査を行う。

### 1 問診

問診に当たっては、不正性器出血等の現在の症状、月経及び分娩・妊娠等に関する事項、子宮頸部病変の既往歴、家族歴、過去の検診の受診状況等を聴取する。

### 2 視診

外陰部を観察し、その後陰鏡を挿入し、陰壁並びに子宮頸部の状況を観察する。

### 3 子宮頸部の細胞診

- (1) 子宮頸部の細胞診については、子宮頸部及び陰部表面の全面擦過法によって、検体を採取し、迅速に処理（固定等）した後、パパニコロウ染色を行い、顕微鏡下で観察する。
- (2) 検体の顕微鏡検査は、十分な経験を有する医師及び臨床検査技師を有する専門的検査機関において行う。この場合において、医師及び臨床検査技師は、公益社団法人日本臨床細胞学会認定の細胞診専門医及び細胞検査士であることが望ましい。
- (3) 子宮頸部の細胞診の結果は、標本の適否の判定を行い、ベセスダシステム（別紙3-2参照）によって分類した上で、精密検査の必要性の有無を決定し、速やかに検査を依頼した者に通知する。なお、検体が不適切であった場合には、再度子宮頸部の細胞診を実施するものとする。

### 4 内診及びコルポスコープ検査

必要に応じて、双合診やコルポスコープ検査を実施する。

### 5 記録の整備

- (1) 検診実施機関は、細胞診の結果を「子宮頸がん検診結果記録票」（様式4号）等に記録し、少なくとも5年間は保存する。
- (2) 検診実施機関は、検診結果を市町に報告する。

## 6 その他

問診の結果、最近6か月以内に、不正性器出血（一過性の少量の出血、閉経後出血等）、月経異常（過多月経、不規則月経等）及び褐色帯下のいずれかの症状を有していたことが判明した者に対しては、子宮体がんの有症状者である疑いがあることから、第一選択として、十分な安全管理の下で多様な検査を実施できる医療機関へ受診を勧奨する。

## 第7 検診結果の指導区分

検診結果に基づく指導区分は、「要精検」及び「精検不要」とし、それぞれ次の内容の指導を行う。

### 1 「要精検」と区分された者

医療機関において精密検査を受診するように指導する。

子宮頸がん検診の結果、ベセスダシステムで「扁平上皮系異常」、「腺系異常」と判定された者（別紙2参照）

### 2 「精検不要」と区分された者

2年後の検診受診を勧める。併せて、検診で精検不要であったとしても、検診後に子宮頸がんが疑われる症状等が出現した場合は、速やかに医療機関を受診するように指導する。

## 第8 検診結果の報告及び通知

- 1 市町又は検診実施機関は、検診終了後速やかに、検診結果を「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式3号）に記録する。
- 2 市町又は検診実施機関は、検診結果報告を基に、受診者あてに「子宮頸がん検診結果通知書」（様式5号）を作成し、精密検査の必要性の有無を附し、受診者に速やかに通知する。
  - (1) 要精密検査：「子宮頸がん検診結果通知書」（様式5号）及び「子宮頸部精密検査依頼書」（様式6号）
  - (2) 精検不要：「子宮頸がん検診結果通知書（様式5号）」

## 第9 検診記録の整備及び精密検査結果の把握

### 1 検診記録の整備

市町は、検診実施機関等と連携を図り、「子宮頸がん検診受診者名簿」（様式3号）等に、受診者の氏名、年齢、住所、過去の検診受診状況、子宮頸部の細胞診の結果、精密検査の受診勧奨の有無、精密検査受診の有無、精密検査結果等を記録し、また、「子宮頸がん検診結果集計表」（様式7号）を作成する。

また、受診指導の記録を併せて整理するほか、必要に応じて個人票を作成し、医療機関における確定診断の結果及び治療の状況等を記録する。

## 2 子宮頸がん検診精密検査結果の把握

市町又は検診実施機関は、「子宮頸部精密検査依頼書」（様式6号）等により精密検査実施医療機関に精密検査を依頼するとともに、その結果を把握する。

## 第10 事業評価

がん検診における事業評価については、平成20年3月に厚生労働省「がん検診事業の評価に関する委員会」がとりまとめた報告書「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」（以下「報告書」という。）において、その基本的な考え方を示しているところである。一義的にはアウトカム指標としての死亡率により行われるべきであるが、死亡率減少効果が現れるまでに相当の時間を要すること等から、「技術・体制的指標」と「プロセス指標」による評価を徹底し、結果として死亡率減少を目指すことが適当とされた。この「技術・体制的指標」として、「事業評価のためのチェックリスト」\*（以下「チェックリスト」という。）及び「仕様書に明記すべき最低限の精度管理項目」が示され、「プロセス指標」として、がん検診受診率、要精検率、精検受診率、陽性反応的中度、がん発見率等の許容値が示された。

そこで、子宮頸がん検診の実施に当たっては、適切な方法及び精度管理の下で実施することが不可欠であることから、市町は、「~~子宮がん検診のための~~チェックリスト（市区町村用）」~~（参考2）~~\*（以下「チェックリスト」という。）を参考とするなどして、検診の実施状況を把握する。その上で、保健所、地域医師会及び検診実施機関等関係者と十分協議を行い、地域における実施体制の整備に努めるとともに、子宮がん部会における検討結果を踏まえ、その指導又は助言に基づき、検診実施機関の選定及び実施方法等の改善を行う。

また、県は、子宮がん部会において、全国がん登録を活用するとともに、「チェックリスト（都道府県用）」~~（参考3）~~\*を参考とするなどして、がんの罹患動向、検診の実施方法及び精度管理の在り方等について専門的な見地から検討を行う。さらに、「チェックリスト（市区町村用）」~~（参考2）~~\*の結果を踏まえ、市町に対する技術的支援及び検診実施機関に対する指導を行う。

※ 「事業評価のためのチェックリスト」については、国立がん研究センターが示す「事業評価のためのチェックリスト」を参考にする。

「事業評価のためのチェックリストおよび仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」

([https://ganjoho.jp/med\\_pro/pre\\_ser\\_cancer\\_control/screening/check\\_list.html](https://ganjoho.jp/med_pro/pre_ser_cancer_control/screening/check_list.html))

## 第11 検診実施機関

1 検診実施機関は、適切な方法及び精度管理の下で子宮頸がん検診が円滑に実施されるよう、「チェックリスト（検診実施機関用）」~~（参考1）~~を参考とするなどして、細胞診等の精度管理に努める。

- 2 検診実施機関は、子宮頸がんに関する正確な知識及び技能を有するものでなければならない。
- 3 検診実施機関は、精密検査実施機関と連絡をとり、精密検査結果の把握に努めなければならない。
- 4 検診実施機関は、検体及び検診結果を少なくとも5年間は保存しなければならない。
- 5 検診実施機関は、香川県がん対策推進協議会及び子宮がん部会における検診結果や助言を踏まえ、実施方法等の改善に努める。

## 第12 精密検査等

- 1 子宮頸がん検診において「要精検」とされた場合は、必ず精密検査を受けるよう、あらかじめ全ての検診受診者に周知する。  
 なお、その際には、精密検査を実施することにより、子宮頸がんの早期治療ができる可能性があるなどの科学的知見に基づき、十分な説明を行う。
- 2 精密検査実施医療機関は、精密検査の結果を、速やかに検査を依頼した者に対し通知する。

## 第6 検診方法等

### 国の指針

子宮頸がん検診の検診項目は、問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診とする。必要に応じて  
 コルポスコープ検査を行う。



### 県の指針

検診項目は、問診、視診、子宮頸部の細胞診とする。必要に応じて内診、コルポスコープ検査  
 を行う。

### 国の指針

#### イ 視診

膣鏡を挿入し、子宮頸部の状況を観察する。



### 県の指針

#### 2 視診

外陰部を観察し、その後膣鏡を挿入し、膣壁並びに子宮頸部の状況を観察する。

### 国の指針

#### エ 内診

双合診を実施する。



### 県の指針

#### 4 内診及びコルポスコープ検査

必要に応じて、双合診やコルポスコープ検査を実施する。

(別紙1)

## 仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目

### 1 検査の精度管理

#### (1) 検査項目

検査項目は、医師による子宮頸部の検体採取による細胞診のほか、問診、視診（必要に応じて  
コルポスコープ検査）とする。

#### (2) 問診

ア 問診は、妊娠及び分娩歴、月経の状況、不正性器出血等の症状の有無、過去の検診受診状  
況等を聴取する。

イ 問診の上、症状（体がんの症状を含む）のある者には、適切な医療機関への受診勧奨を行  
う。

#### (3) 視診

外陰部を観察し、その後膣鏡を挿入し、膣壁並びに子宮頸部の状況を観察する。

#### (4) 子宮頸部細胞診検体採取（検診機関での精度管理）

ア 細胞診の方法（従来法/液状検体法、採取器具）を明らかにする。

イ 細胞診は、直視下に子宮頸部及び膣部表面の全面擦過により細胞を採取<sup>注1</sup>）、迅速に処理  
（採取した細胞は直ちにスライドガラスに塗抹して速やかに固定すること。または、直ちに  
液状化検体細胞診用の保存液ボトル内に攪拌懸濁し固定すること）する。

ウ 細胞診の業務（細胞診の判定も含む）を委託する場合は、その委託機関（施設名）を明ら  
かにする。

エ 検体が不適正との判定を受けた場合は、当該検診機関で再度検体採取を行う。不適正例が  
あった場合は必ず再度検体採取を行い、また不適正例が無い場合でも、再度検体採取を行う  
体制を有すること。

オ 検体が不適正との判定を受けた場合は、当該検診機関でその原因等を検討し、対策を講じ  
る。不適正例があった場合は必ず原因を検討し対策を講じ、また不適正例が無い場合でも、  
対策を講じる体制を有すること。

カ 問診記録、検診結果は少なくとも5年間は保存する。

#### (5) 子宮頸部細胞診判定（細胞診判定施設での精度管理）

ア 細胞診判定施設は、公益社団法人日本臨床細胞学会の施設認定を受ける。もしくは、公益  
社団法人日本臨床細胞学会の認定を受けた細胞診専門医と細胞検査士が連携して検査を行  
う<sup>注2</sup>）。

- イ 細胞診陰性と判断された検体は、その 10%以上について、再スクリーニングを行い注2)、再スクリーニング施行率を報告する。
- ウ 細胞診結果の報告には、ベセスダシステム注3) を用いる。
- エ 全ての子宮頸がん検診標本の状態について、ベセスダシステムの基準に基づいて適正・不適正のいずれかに分類し、細胞診結果に明記する。必ず全ての標本について実施し、一部でも実施しない場合は不適切である。
- オ がん発見例は、過去の細胞所見の見直しを行う。がん発見例については必ず見直しを行い、がん発見例が無い場合でも、少なくとも見直す体制を有すること。
- カ 標本は少なくとも5年間は保存する。

## (6) 受診者への説明

- ① 下記の6項目を記載した資料を、受診者全員に個別に配布する（ポスターや問診票など持ち帰れない資料や、口頭説明のみは不可とする）。
- ② 資料は基本的に受診時に配布するが、市町が事前に配布している場合は検診機関からの配布を省いてもよい。
  - ア 検査結果は「精密検査不要」「要精密検査」のいずれかの区分で報告されることを説明し、要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があることを明確に説明する。
  - イ 精密検査の方法について説明する（精密検査としては、検診結果に基づいてコルポスコープ下の組織診や細胞診、HPV 検査などを組み合わせたものを実施すること、及びこれらの検査の概要など）。
  - ウ 精密検査結果は市町等へ報告すること、また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関がその結果を共有することを説明する。
  - エ 検診の有効性（細胞診による子宮頸がん検診は、子宮頸がんの死亡率・罹患率を減少させること）に加えて、がん検診で必ずがんを見つけられるわけではないこと（偽陰性）、がんがなくてもがん検診の結果が「陽性」となる場合もあること（偽陽性）など、がん検診の欠点について説明する。
  - オ 検診受診の継続（隔年）が重要であること、また、症状がある場合は医療機関の受診が重要であることを説明する。
  - カ 子宮頸がんの罹患は、わが国の女性のがんの中で比較的多く、また近年増加傾向にあることなどを説明する。

## 2 システムとしての精度管理

- (1) 受診者への結果の通知・説明、またはそのための市町への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内に行う。
- (2) 精密検査方法及び、精密検査（治療）結果（精密検査の際に行った組織診やコルポ診、細胞診、HPV 検査の結果などや、手術によって判明した組織診断や臨床進行期のこと）について、

市町や医師会から求められた項目の積極的な把握に努める。

- (3) 診断・判定の精度向上のための症例検討会や委員会（自施設以外の子宮頸がん専門家あるいは細胞診専門医を交えた会）等を設置する。もしくは、市町や医師会等が設置した症例検討会や委員会等に参加する。

### 3 事業評価に関する検討

- (1) チェックリストやプロセス指標などに基づく検討を実施する。
- (2) がん検診の結果及びそれに関わる情報について、市町や医師会等から求められた項目を全て報告する。

### 4 がん検診の集計・報告

がん検診の集計・報告は、地域保健・健康増進事業報告に必要な項目を含む内容について市町に報告する。

注1) 一般社団法人 日本婦人科がん検診学会 子宮頸部細胞採取の手引き参照

注2) 日本臨床細胞学会 細胞診精度管理ガイドライン参照

注3) Bethesda systemによる分類：The Bethesda system for Reporting Cervical Cytology second edition 及びベセスダシステム 2001 アトラス参照

(別紙2)

## 細胞診結果 (ベセスダシステム)

### 【扁平上皮系】

結果	略語	推定される病理診断 (※1)	従来の クラス分類	英語表記	取扱い (参考)
1) 陰性	NILM	非腫瘍性所見 炎症	I、II	Negative for intraepithelial lesion or malignancy	異常なし：定期検診
2) 意義不明な 異型扁平上皮細胞	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い (※2) 説明：「判定が難しい」 「識別できない」	II、IIIa	Atypical squamous cells of undetermined significance	要精検： ①HPV <u>テスト検査</u> による判定 が望ましい 陰性：1年後に細胞診 <u>HPV併 用検査</u> 陽性：コルポ <u>スコーピー</u> 、生検 ②HPV <u>テスト検査</u> 非施行 6か月以内細胞診再検査
3) <u>HSIL</u> を除外できない 異型扁平上皮細胞	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い (※3) 説明：「高度病変を疑う」	III/III b	Atypical squamous cells cannot exclude HSIL	要精検： コルポ <u>スコーピー</u> 、生検
4) 軽度扁平上皮内病変	LSIL	HPV感染 <u>CIN1 (軽度異形成)</u>	IIIa	Low grade squamous intraepithelial lesion	
5) 高度扁平上皮内病変	HSIL	<u>CIN2 (中程度異形成)</u> <u>CIN3 (高度異形成 / 上皮 内がん)</u>	IIIa IIIb IV	High grade squamous intraepithelial lesion	
6) 扁平上皮がん	SCC	扁平上皮がん ( <u>微小浸潤 I A期</u> のがんを含む)	V	Squamous cell carcinoma	

**【腺系】**

7) 異型腺細胞	AGC	腺異形成、腺系病変疑い	Ⅲ	Atypical glandular cells	要精検： コルポ <u>スコピー</u> 、生検、 頸管 <u>及び</u> 内膜細胞診又は組織診
8) 上皮内腺がん	AIS	上皮内腺がん	Ⅳ	Adenocarcinoma in situ	
9) 腺がん	Adeno- carcinoma	腺がん	Ⅴ	Adenocarcinoma	

**【その他の悪性腫瘍】**

10) その他の悪性腫瘍	other	その他の悪性腫瘍	Ⅴ	Other malignant neoplasms	要精検：病変検索
--------------	-------	----------	---	---------------------------	----------

- ※1 推定される病理診断：報告書には臨床的取扱いの参考にするために、推定される病理組織分類を従来どおり付記することが推奨される。
- ※2 意義不明な異型扁平上皮細胞（ASC-US）：軽度扁平上皮内病変（LSIL）疑い（否定できない）。全報告の5%以下であることが期待される。ハイリスク HPV が約 50%に検出される。約 10～20%は CIN2-CIN3（中等度－高度異形成、上皮内がん）と最終診断される。
- ※3 HSIL を除外できない異型扁平上皮細胞（ASC-H）：高度扁平上皮内病変（HSIL）疑い（否定できない）。全 ASC の 10%以下であることが期待される。CIN2（中等度異形成）以上と最終診断される率が ASC-US より高い。

(様式1号)

## 年度 子宮頸がん検診事業計画書

市町名 \_\_\_\_\_

1 実施期間

年 月 日 ~ 年 月 日

2 予定人員

\_\_\_\_\_名

3 周知方法

( \_\_\_\_\_ )

4 周知期間

年 月 日 ~ 年 月 日

5 実施場所

検診機関名	検診実施住所	予定人員	備考

6 受診結果集計期間

年 月 日 ~ 年 月 日

7 精密検査結果調査期間

年 月 日 ~ 年 月 日

# 子宮頸がん検診問診票

市町名 \_\_\_\_\_

検診日	年 月 日	検体番号	
ふりがな	住所		
氏名		生年月日	大・昭・平 年 月 日 ( 歳)
電話番号	( ) -		

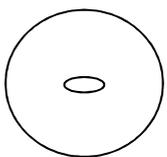
※ あてはまるものを○で囲み、( )に必要事項を記入してください。

1 これまでに子宮(頸)がん検診を受けたことがありますか			
(1) 今回初めて	} 前回の検診結果は		
(2) 昨年受診あり		a 異常あり (結果 )	
(3) 過去3年以内に受診あり		b 異常なし	
(4) 過去3年以内に受診なし			
2 子宮の手術や病気がありますか			
(1) あり (病名 )	(2) なし		
↳ a 現在治療中	b ( )年頃に治療終了		
3 結婚歴			
(1) あり (結婚年齢 歳 )	(2) なし		
4 妊娠・出産歴			
(1) あり	(2) なし		
a 妊娠回数 ( 回)	} 生産 回 死産 回 流産 回 (人工 回、自然 回)		
b 最終の出産・流産はいつですか ( 歳)			
c 帝王切開はありますか ( 年 月 ・ 年 月)			
d 現在 ① 妊娠( ヶ月) ② 産後( ヶ月 ) ③ 授乳中			
5 月経歴			
(1) あり	(2) なし(閉経 歳)		
(最近の月経 月 日 ~ 月 日)			
(1)の場合、月経間隔は			
a 順調	b 不順		
6 過去6か月以内に気になる出血(不正性器出血)はありますか			
(1) あり	(2) なし		
↳ (1)の場合			
a 閉経後出血	b 過少月経	c 過多月経	
d 過長月経	e 不規則出血	f 一時的な不正出血	
g 褐色帯下	h その他( )		



# 子宮頸がん検診結果記録票

市町名 \_\_\_\_\_

ふりがな 氏名	住所 電話番号 ( ) -	
生年月日	大・昭・平 年 月 日生 ( 歳)	
検体番号		
検診日	令和 年 月 日	検診場所
検診機関名	検診機関 住所	
電話番号 ( ) -	担当医師	
<b>検体の採取方法</b> <input type="checkbox"/> 従来法 <input type="checkbox"/> 液状検体法 <input type="checkbox"/> その他 ( )		<b>採取器具</b> <input type="checkbox"/> 綿棒又は綿球 <input type="checkbox"/> スクレーパー <input type="checkbox"/> ブラシ <input type="checkbox"/> その他 ( )
クスコ診あるいはコルポスコープ所見 		<b>双合診</b> 異常 あり・なし ↓ ありの場合 ( )
びらん あり・なし 萎縮 あり・なし		
子宮体部検診の必要性 (※医師が記入する)		<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
<b>子宮頸部細胞診判定</b>		
<b>ベセスダシステム</b> ・標本の適否 <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正 ( ) ・陰性(NILM) <input type="checkbox"/> 微生物 <input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見 ( ) ・扁平上皮系異常 <input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> SCC		
・腺系異常 <input type="checkbox"/> AGC <input type="checkbox"/> AIS <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍 ( )		子宮頸がん検診中/後の偶発症の有無 ※入院治療を要するもの ・重篤な偶発症の確認 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ( ) ・偶発症による死亡 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ( )
<b>HPV検査実施及び結果</b>		
<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施 結果: <input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性		
<b>検診判定結果</b>		<b>所見:</b>
<input type="checkbox"/> 判定不能 <input type="checkbox"/> 異常なし <input type="checkbox"/> 要精検		細胞検査士: _____ 細胞診専門医: _____

(様式5号)

## 子宮頸がん検診結果通知書

様

○ 印があなたの検診結果です。

### 子宮頸がん検診

- 1 今回の子宮頸がん検診では、異常を認めませんでした。  
これからも2年に1回は検診を受けられるようお勧めします。また、不正性器出血などの自覚症状があるときは、早い時期に医療機関を受診されるようお勧めします。
- 2 今回の検診の結果、「精密検査」が必要です。  
検診を受けた医療機関の医師の指示に従い、「子宮頸部精密検査依頼書」を御持参になり、最寄りの婦人科専門医療機関を受診してください。  
なお、健康保険証は必ず持参してください。
- 3 内診所見で異常が認められました。最寄りの婦人科専門医療機関を受診してください。  
なお、健康保険証は必ず持参してください。

年 月 日

検診機関名

担当医師

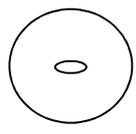
# 子宮頸部精密検査依頼書

① 子宮頸部精密検査実施医療機関保存用

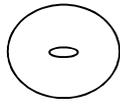
子宮頸部精密検査実施医療機関 殿

市町名 \_\_\_\_\_

下記の方は子宮頸がん検診の結果、精密検査を要するののでよろしくお願いいたします。  
なお、御高診の上、該当項目を記入し、結果報告書2部(②、③)を一次検診機関又は市町に御回答ください。

フリガナ 氏名	住所		( ) -
生年月日	大・昭・平	年	月 日 生(年齢 歳)
検診日	年	月	日 検診場所
検診機関名	双合診		クスコ診あるいはコルポスコープ所見
検診機関住所	異常 あり・なし ↓ ( )		 びらん <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 萎縮 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
電話番号	担当医師		
子宮頸部細胞診判定			HPV検査
ベセスダシステム ・標本の適否 <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正 ( ) ・陰性(NILM) <input type="checkbox"/> 微生物 <input type="checkbox"/> その他の 非腫瘍性所見 ( )			・実施 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし ・結果 <input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性( ) 細胞診所見: 細胞検査士: 細胞診専門医:
・扁平上皮系異常 <input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> SCC			・腺系異常 <input type="checkbox"/> AGC <input type="checkbox"/> AIS <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍 ( )

## 精密検査(精密検査実施医療機関記載欄)

検査結果		びらん <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 萎縮 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
(1)クスコ診あるいはコルポスコープ所見 a. NCF(正常)    b. ACF(異常)    c. IC(浸潤癌) d. UCF(不適例)    e. MF(その他の非癌所見)		
(2)HPV検査 <input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性(タイプ: ) <input type="checkbox"/> 実施なし		
(3)細胞診検査 <input type="checkbox"/> あり: 令和 年 月 日 <input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> その他( ) ・標本の適否 <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正 ・陰性(NILM) <input type="checkbox"/> 微生物 <input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見 ( )		
・扁平上皮系異常 <input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> SCC		
・腺系異常 <input type="checkbox"/> AGC <input type="checkbox"/> AIS <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.) <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍( )		
(4)組織検査 <input type="checkbox"/> あり: 令和 年 月 日 <input type="checkbox"/> 生検 <input type="checkbox"/> 円錐切除 <input type="checkbox"/> 摘出子宮 <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> 組織とれず <input type="checkbox"/> その他( )		

## 最終診断

- (1) 異常なし:  a. 異常なし     b. 良性病変のみ
- (2) 異形成:  a. CIN1(軽度異形成)     b. CIN2(中等度異形成)     c. CIN3(高度異形成・上皮内癌)     d. 腺異形成
- (3) 悪性腫瘍:  a. 上皮内癌     b. 微小浸潤扁平上皮癌(IA期)     c. 扁平上皮癌(IB期以上)  
 d. 上皮内腺癌     e. 微小浸潤腺癌(IA期)     f. 腺癌(IB期以上)  
 g. その他の原発性上皮性腫瘍( )  
 h. その他の原発性腫瘍( )  
 i. 続発性腫瘍( )
- (4) コルポスコープや細胞診で所見があり、組織診で所見がない場合:
- (5) 未受診:
- (6) 未把握:

子宮頸がんの精検中/後の偶発症の有無 ※入院治療を要するもの

・重篤な偶発症の確認 なし あり( )

・偶発症による死亡 なし あり( )

## 診断後の処置(今後の方針)

- (1)  要手術    (2)  入院治療  
(3)  通院治療    (4)  経過観察(    ヲ月後予定)  
(5)  他院紹介(病院名    )  
(6)  特に指示なし

精密検査実施医療機関 ( ) -

担当医師名  
記載日    年    月    日

# 子宮頸部精密検査結果報告書 (検診実施機関用)

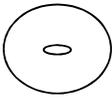
② 子宮頸がん一次検診実施機関保存用

市町名 \_\_\_\_\_

要精検者の精密検査の結果を下記のとおり通知します。

ふりがな	住所	( ) -
氏名		
生年月日 大・昭・平	年 月 日	生(年齢 歳)

## 精密検査(精密検査実施医療機関記載欄)

<b>検査結果</b>			びらん <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
(1) クスコ診あるいはコルポスコブ所見			萎縮 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
a. NCF(正常)    b. ACF(異常)    c. IC(浸潤癌)			
d. UCF(不適例)    e. MF(その他の非癌所見)			
(2) HPV検査			
<input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性(タイプ: _____) <input type="checkbox"/> 実施なし			
(3) 細胞診検査			
<input type="checkbox"/> あり: 令和 _____年 _____月 _____日		<input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> その他( _____ )	
・標本の適否		・扁平上皮系異常	
<input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正		<input type="checkbox"/> 腺系異常	
・陰性(NILM)		<input type="checkbox"/> ASC-US	
<input type="checkbox"/> 微生物		<input type="checkbox"/> ASC-H	
<input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見		<input type="checkbox"/> LSIL	
( _____ )		<input type="checkbox"/> HSIL	
		<input type="checkbox"/> SCC	
		<input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.)	
		<input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍( _____ )	
(4) 組織検査			
<input type="checkbox"/> あり: 令和 _____年 _____月 _____日		<input type="checkbox"/> 生検 <input type="checkbox"/> 円錐切除 <input type="checkbox"/> 摘出子宮 <input type="checkbox"/> その他( _____ )	
<input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> 組織とれず		<input type="checkbox"/> その他( _____ )	

## 最終診断

(1) 異常なし: <input type="checkbox"/> a. 異常なし <input type="checkbox"/> b. 良性病変のみ	
(2) 異形成: <input type="checkbox"/> a. CIN1(軽度異形成) <input type="checkbox"/> b. CIN2(中等度異形成) <input type="checkbox"/> c. CIN3(高度異形成・上皮内癌) <input type="checkbox"/> d. 腺異形成	
(3) 悪性腫瘍: <input type="checkbox"/> a. 上皮内癌 <input type="checkbox"/> b. <u>微小浸潤扁平上皮癌(IA期)</u> <input type="checkbox"/> c. 扁平上皮癌(IB期以上)	
<input type="checkbox"/> d. 上皮内腺癌 <input type="checkbox"/> e. <u>微小浸潤腺癌(IA期)</u> <input type="checkbox"/> f. 腺癌(IB期以上)	
<input type="checkbox"/> g. その他の原発性上皮性腫瘍( _____ )	
<input type="checkbox"/> h. その他の原発性腫瘍( _____ )	
<input type="checkbox"/> i. 続発性腫瘍( _____ )	
(4) コルポスコピーや細胞診で所見があり、組織診で所見がない場合: <input type="checkbox"/>	
(5) 未受診: <input type="checkbox"/>	子宮頸がんの精検中/後の偶発症の有無 ※入院治療を要するもの
(6) 未把握: <input type="checkbox"/>	・重篤な偶発症の確認 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( _____ )
	・偶発症による死亡 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( _____ )

## 診断後の処置(今後の方針)

(1) <input type="checkbox"/> 要手術    (2) <input type="checkbox"/> 入院治療	精密検査実施医療機関 ( _____ ) -
(3) <input type="checkbox"/> 通院治療    (4) <input type="checkbox"/> 経過観察( _____ ヵ月後予定)	
(5) <input type="checkbox"/> 他院紹介(病院名 _____ )	担当医師名 _____
(6) <input type="checkbox"/> 特に指示なし	

# 子宮頸部精密検査結果報告書(市町用)

③ 市町保存用

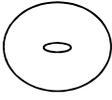
市町名 \_\_\_\_\_

要精検者の精密検査の結果を下記のとおり通知します。

なお、御高診の上、該当項目を記入し、結果報告書2部(②、③)を一次検診機関又は市町に御回答ください。

氏名	_____	住所	( ) - _____
生年月日	大・昭・平	年	月 日 生(年齢 歳)

## 精密検査(精密検査実施医療機関記載欄)

<b>検査結果</b>			びらん <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
(1) クスコ診あるいはコルポスコープ所見			萎縮 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
a. NCF(正常)    b. ACF(異常)    c. IC(浸潤癌)			
d. UCF(不適例)    e. MF(その他の非癌所見)			
(2) HPV検査			
<input type="checkbox"/> 陰性 <input type="checkbox"/> 陽性(タイプ: _____) <input type="checkbox"/> 実施なし			
(3) 細胞診検査			
<input type="checkbox"/> あり: 令和 _____年 _____月 _____日		<input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> その他( _____ )	
• 標本の適否		• 扁平上皮系異常    • 腺系異常	
<input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 不適正		<input type="checkbox"/> ASC-US <input type="checkbox"/> AGC	
• 陰性(NILM)		<input type="checkbox"/> ASC-H <input type="checkbox"/> AIS	
<input type="checkbox"/> 微生物		<input type="checkbox"/> LSIL <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.)	
<input type="checkbox"/> その他の非腫瘍性所見		<input type="checkbox"/> HSIL <input type="checkbox"/> 腺がん(Adeno Ca.)	
( _____ )		<input type="checkbox"/> SCC <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍( _____ )	
(4) 組織検査			
<input type="checkbox"/> あり: 令和 _____年 _____月 _____日		<input type="checkbox"/> 生検 <input type="checkbox"/> 円錐切除 <input type="checkbox"/> 摘出子宮 <input type="checkbox"/> その他( _____ )	
<input type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/> 来院なし <input type="checkbox"/> 組織とれず		<input type="checkbox"/> その他( _____ )	

## 最終診断

(1) 異常なし: <input type="checkbox"/> a. 異常なし <input type="checkbox"/> b. 良性病変のみ	
(2) 異形成: <input type="checkbox"/> a. CIN1(軽度異形成) <input type="checkbox"/> b. CIN2(中等度異形成) <input type="checkbox"/> c. CIN3(高度異形成・上皮内癌) <input type="checkbox"/> d. 腺異形成	
(3) 悪性腫瘍: <input type="checkbox"/> a. 上皮内癌 <input type="checkbox"/> b. <u>微小浸潤扁平上皮癌(IA期)</u> <input type="checkbox"/> c. <u>扁平上皮癌(IB期以上)</u>	
<input type="checkbox"/> d. 上皮内腺癌 <input type="checkbox"/> e. <u>微小浸潤腺癌(IA期)</u> <input type="checkbox"/> f. <u>腺癌(IB期以上)</u>	
<input type="checkbox"/> g. その他の原発性上皮性腫瘍( _____ )	
<input type="checkbox"/> h. その他の原発性腫瘍( _____ )	
<input type="checkbox"/> i. 続発性腫瘍( _____ )	
(4) コルポスコープや細胞診で所見があり、組織診で所見がない場合: <input type="checkbox"/>	
(5) 未受診: <input type="checkbox"/>	<b>子宮頸がんの精検中/後の偶発症の有無 ※入院治療を要するもの</b>
(6) 未把握: <input type="checkbox"/>	• 重篤な偶発症の確認 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( _____ )
	• 偶発症による死亡 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( _____ )

## 診断後の処置(今後の方針)

(1) <input type="checkbox"/> 要手術    (2) <input type="checkbox"/> 入院治療	精密検査実施医療機関 ( ) - _____
(3) <input type="checkbox"/> 通院治療    (4) <input type="checkbox"/> 経過観察( _____ ヵ月後予定)	
(5) <input type="checkbox"/> 他院紹介(病院名 _____ )	
(6) <input type="checkbox"/> 特に指示なし	
担当医師名 _____	記載日 _____年 _____月 _____日





# 削除

(参考1) 国立研究開発法人国立がん研究センター「事業評価のためのチェックリスト」(令和2年度改訂版)から引用

子宮頸がん検診のためのチェックリスト(検診実施機関用) - 集団検診・個別検診

令和3年3月

解説:

- ① このチェックリストの対象は、委託元市区町村との契約形態にかかわらず、「実際に検診を行う個々の検診機関(医療機関)」である
- ② 検診機関が単独で実施できない項目については、関係機関と連携して実施すること

〔このチェックリストにより調査を行う際の考え方〕

- ① 基本的には、実際の検診を行う個々の検診機関(医療機関)が回答する
  - ② 自治体<sup>\*</sup>や医師会主導で行っている項目(自治体や医師会しか状況を把握できない項目)については、あらかじめ、自治体や医師会が全検診機関(医療機関)に回答を通知することが望ましい<sup>\*\*</sup>  
ただし医師会等が全項目を統一して行っている場合は、医師会等が一括して回答しても構わない
- <sup>\*</sup> このチェックリストで「自治体」と表記した箇所は、「都道府県もしくは市区町村」と解釈すること(どちらかが実施していればよい)
- <sup>\*\*</sup> 特に個別検診の場合

## 1. 受診者への説明

解説:

- ① 下記の6項目を記載した資料を、受診者全員に個別に配布すること(ポスターや問診票など持ち帰れない資料や、口頭説明のみは不可とする)
  - ② 資料は基本的に受診時に配布する<sup>\*</sup>
- <sup>\*</sup> 市区町村等が受診勧奨時に資料を配布する場合もある  
その場合は資料内容をあらかじめ確認し、下記の6項目が含まれている場合は、検診機関からの配布を省いてもよい。また、チェックリストによる調査の際は、「実施している」と回答してよい
- (1) 検査結果は「精密検査不要」「要精密検査」のいずれかの区分で報告されることを説明し、要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があることを明確に説明しているか
  - (2) 精密検査の方法について説明しているか(精密検査としては、検診結果に基づいてコルポスコプ下の組織診や細胞診、HPV検査などを組み合わせたものを実施すること、及びこれらの検査の概要など)
  - (3) 精密検査結果は市区町村等へ報告すること、また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関がその結果を共有することを説明しているか<sup>\*</sup>  
<sup>\*</sup> 精密検査結果は、個人の同意がなくても、市区町村や検診機関に対して提供できる(個人情報保護法の例外事項として認められている)
  - (4) 検診の有効性(細胞診による子宮頸がん検診は、子宮頸がんの死亡率・罹患率を減少させること)に加えて、がん検診で必ずがんを見つけられるわけではないこと(偽陰性)、がんがなくてもがん検診の結果が「陽性」となる場合もあること(偽陽性)など、がん検診の欠点について説明しているか
  - (5) 検診受診の継続(隔年)が重要であること、また、症状がある場合は医療機関の受診が重要であることを説明しているか
  - (6) 子宮頸がんの罹患は、わが国の女性のがんの中で比較的多く、また近年増加傾向にあることなどを説明しているか

## 2. 検診機関での精度管理

- (1) 検診項目は、医師による子宮頸部の検体採取による細胞診のほか、問診、視診を行っているか
- (2) 細胞診の方法(従来法/液状検体法、採取器具)を仕様書<sup>\*</sup>に明記しているか  
<sup>\*</sup> 仕様書とは委託元市区町村との契約時に提出する書類のこと(仕様書以外でも何らかの形で委託元市区町村に報告していればよい)
- (3) 細胞診は、直視下に子宮頸部及び陰部表面の全面擦過により細胞を採取し<sup>注1</sup>、迅速に処理<sup>\*</sup>しているか  
<sup>\*</sup> 採取した細胞は直ちにスライドガラスに塗抹して速やかに固定すること。または、直ちに液状化検体細胞診用の保存液ボトル内に攪拌懸濁し固定すること
- (4) 細胞診の業務(細胞診の判定も含む)を外部に委託する場合は、その委託機関(施設名)を仕様書に明記しているか
- (5) 検体が不適正との判定を受けた場合は、当該検診機関で再度検体採取を行っているか<sup>\*</sup>

※ 不適正例があった場合は必ず再度検体採取を行うこと。また不適正例が無い場合でも、再度検体採取を行う体制を有すること

- (6) 検体が不適正との判定を受けた場合は、当該検診機関でその原因等を検討し、対策を講じているか※  
※ 不適正例があった場合は必ず原因を検討し対策を講じること。また不適正例が無い場合でも、対策を講じる体制を有すること
- (7) 検診結果は少なくとも5年間は保存しているか
- (8) 問診は、妊娠及び分娩歴、月経の状況、不正性器出血等の症状の有無、過去の検診受診状況等を聴取しているか
- (9) 問診の上、症状（体がんの症状を含む）のある者には、適切な医療機関への受診勧奨を行っているか
- (10) 問診記録は少なくとも5年間は保存しているか
- (11) 視診は腔鏡を挿入し、子宮頸部の状況を観察しているか

### 3. 細胞診判定施設での精度管理

解説：

- ① 細胞診判定を外注している場合は、外注先施設の状況を確認すること
- ② 自治体や医師会が外注先施設を指定している場合は、自治体や医師会が代表して外注先施設の状況を確認し、各検診機関に通知する形が望ましい
- ③ 自治体や医師会が把握していない場合は、検診機関が直接外注先施設に確認すること

- (1) 細胞診判定施設は、公益社団法人日本臨床細胞学会の施設認定を受けているか。もしくは、公益社団法人日本臨床細胞学会の認定を受けた細胞診専門医と細胞検査士が連携して検査を行っているか<sup>注2</sup>
- (2) 細胞診陰性と判断された検体は、その10%以上について再スクリーニングを行い<sup>注2</sup>、再スクリーニング施行率を報告しているか※  
※ 自治体、医師会等から再スクリーニング施行率の報告を求められた場合に報告できればよい。また公益社団法人日本臨床細胞学会の認定施設においては、再スクリーニング施行率を学会に報告すること
- (3) 細胞診結果の報告には、ベセスダシステム<sup>注3</sup>を用いているか
- (4) 全ての子宮頸がん検診標本の状態について、ベセスダシステムの基準に基づいて適正・不適正のいずれかに分類し、細胞診結果に明記しているか※  
※ 必ず全ての標本について実施すること。一部でも実施しない場合は不適切である
- (5) がん発見例は、過去の細胞所見の見直しを行っているか※  
※ がん発見例については必ず見直すこと。また、がん発見例が無い場合でも、少なくとも見直す体制を有すること
- (6) 標本は少なくとも5年間は保存しているか

### 4. システムとしての精度管理

解説：

- ① 検診機関が単独で実施できない項目については、関係機関と連携して実施すること
- ② 自治体や医師会主導で実施している項目（自治体や医師会しか状況を把握できない項目）については、あらかじめ自治体や医師会が全検診機関（医療機関）に実施状況を通知することが望ましい※  
※ 特に個別検診の場合

- (1) 受診者への結果の通知・説明、またはそのための市区町村への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内になされているか
- (2) がん検診の結果及びそれに関わる情報<sup>※</sup>について、市区町村や医師会等から求められた項目を全て報告しているか。もしくは全て報告されていることを確認しているか  
※ がん検診の結果及びそれに関わる情報とは、地域保健・健康増進事業報告に必要な情報を指す
- (3) 精密検査方法及び、精密検査（治療）結果<sup>※</sup>（精密検査の際に行った組織診やコルポ診、細胞診、HPV検査の結果などや、手術によって判明した組織診断や臨床進行期のこと）について、市区町村や医師会から求められた項目の積極的な把握に努めているか  
※ 精密検査（治療）結果は地域保健・健康増進事業報告に必要な情報を指す
- (4) 診断・判定の精度向上のための症例検討会や委員会（自施設以外の子宮頸がん専門家あるいは細胞診専門医<sup>※</sup>を交えた会）等を設置しているか。もしくは、市区町村や医師会等が設置した症例検討会や委員会等に参加しているか

※ 当該検診機関に雇用されていない子宮頸がん検診専門家あるいは細胞診専門医

- (5) 自施設の検診結果について、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度等のプロセス指標値を把握※しているか

※ 冒頭の解説のとおり、検診機関が単独で算出できない指標値については、自治体等と連携して把握すること。また自治体等が集計した指標値を後から把握することも可である

- (6) プロセス指標値やチェックリストの遵守状況に基づいて、自施設の精度管理状況を評価し、改善に向けた検討を行っているか。また、都道府県の生活習慣病検診等管理指導協議会、市区町村、医師会等から指導・助言等があった場合は、それを参考にして改善に努めているか

注1 一般社団法人 日本婦人科がん検診学会 子宮頸部細胞採取の手引き参照

注2 公益社団法人日本臨床細胞学会 細胞診精度管理ガイドライン参照

注3 ベセスダシステムによる分類：The Bethesda System for Reporting Cervical Cytology second edition 及びベセスダシステム 2001 アトラス 参照

解説:

- ① このチェックリストにおける「検診機関」は、委託形態にかかわらず、実際の検診を行う個々の検診機関(医療機関)を指す
  - ② 市区町村が単独で実施できない項目については、関係機関(都道府県、検診機関、医師会等)と連携して行うこと\*
  - ③ このチェックリストをもとに調査を行う場合、市区町村が把握できない項目については、関係機関(都道府県、検診機関、医師会等)に確認して回答すること\*
- ※ 特に個別検診の場合

## 1. 検診対象者の情報管理

- (1) 対象者全員の氏名を記載した名簿\*を、住民台帳などに基づいて作成しているか  
※ 前年度受診者や希望者のみを名簿化するのは不適切である
- (2) 対象者全員に、個別に受診勧奨を行っているか  
※ 自治体の広報紙などの配布は不適切である。受診票の送付でも個人名を列記しない世帯分の一括送付は不適切である
- (3) 対象者数(推計でも可)を把握しているか

## 2. 受診者の情報管理

- (1) 個人別の受診(記録)台帳またはデータベースを作成しているか
- (2) 過去5年間の受診歴を記録しているか

## 3. 受診者への説明、及び要精検者への説明

- (1) 受診勧奨時に、「検診機関用チェックリスト 1. 受診者への説明」が全項目記載された資料を、全員に個別配布しているか\*  
※ 検診機関が資料を作成し、配布している場合: 市区町村は資料内容をあらかじめ確認し、全項目が記載されていれば配布を省いてもよい
- (2) 要精検者全員に対し、受診可能な精密検査機関名(医療機関名)\*の一覧を提示しているか  
※ ここで提示する精密検査機関には、可及的に精密検査結果の報告を義務付けること

## 4. 受診率の集計

解説: 過去の検診受診歴別とは、初回受診者(初回の定義は過去3年間に受診歴がない者)及び非初回受診者の別を指す

- (1) 受診率を集計しているか
  - (1-a) 受診率を年齢5歳階級別に集計しているか
  - (1-b) 受診率を検診機関別に集計\*しているか  
※ 受診率算定の分母は市区町村の全対象者数、分子は当該検診機関の受診者数
  - (1-c) 受診率を過去の検診受診歴別に集計しているか

## 5. 要精検率の集計

解説: 過去の検診受診歴別とは、初回受診者(初回の定義は過去3年間に受診歴がない者)及び非初回受診者の別を指す

- (1) 要精検率を集計しているか
  - (1-a) 要精検率を年齢5歳階級別に集計しているか
  - (1-b) 要精検率を検診機関別に集計しているか
  - (1-c) 要精検率を過去の検診受診歴別に集計しているか

## 6. 精密検査結果の把握、精密検査未受診者の特定と受診勧奨

- (1) 精密検査方法及び、精密検査(治療)結果\*を把握しているか

※ 精密検査（治療）結果は地域保健・健康増進事業報告に必要な情報を指す。具体的には、精密検査の際に行った組織診やコルポ診、細胞診、HPV検査の結果などや、手術によって判明した組織診断や臨床進行期のこと

- (2) 精密検査方法及び、精密検査（治療）結果が不明の者については、本人※もしくは精密検査機関への照会等により、結果を確認しているか  
※ 本人に確認する場合は、精密検査受診日・受診機関・精密検査方法・精密検査結果の4つ全てが本人から申告される必要がある
- (3) 個人毎の精密検査方法及び、精密検査（治療）結果を、市区町村、検診機関（医療機関）、精密検査機関が共有しているか
- (4) 過去5年間の精密検査方法及び、精密検査（治療）結果を記録しているか
- (5) 精密検査未受診と精密検査結果未把握を定義<sup>注1</sup>に従って区別し、精密検査未受診者を特定しているか
- (6) 精密検査未受診者に精密検査の受診勧奨を行っているか

## 7. 精検受診率、がん発見率、上皮内病変（CINなど）、進行度がIA期のがんの割合、陽性反応適中度の集計

解説：

- ① 過去の検診受診歴別とは、初回受診者（初回の定義は過去3年間に受診歴がない者）及び非初回受診者の別を指す
- ② 上皮内病変とは、上皮内腺がん（AIS）/CIN3/CIN2/CIN1のいずれかの区分に含まれるものを指す。上皮内病変の数の集計とは、上記の4つの区分に分けて、全て集計することを指す

- (1) 精検受診率を集計しているか
  - (1-a) 精検受診率を年齢5歳階級別に集計しているか
  - (1-b) 精検受診率を検診機関別に集計しているか
  - (1-c) 精検受診率を過去の検診受診歴別に集計しているか
  - (1-d) 精検未受診率と未把握率を定義<sup>注1</sup>に従って区別し、集計しているか
- (2) がん発見率を集計しているか
  - (2-a) がん発見率を年齢5歳階級別に集計しているか
  - (2-b) がん発見率を検診機関別に集計しているか
  - (2-c) がん発見率を過去の検診受診歴別に集計しているか
- (3) 上皮内病変（CIN・AISなど）の数を集計しているか（区分毎）
  - (3-a) 上皮内病変（CIN・AISなど）の数を年齢5歳階級別に集計しているか（区分毎）
  - (3-b) 上皮内病変（CIN・AISなど）の数を検診機関別に集計しているか（区分毎）
  - (3-c) 上皮内病変（CIN・AISなど）の数を過去の検診受診歴別に集計しているか（区分毎）
- (4) 進行度がIA期のがんの割合（がん発見数に対する進行度がIA期のがんの数）を集計しているか
  - (4-a) 進行度がIA期のがんの割合を年齢5歳階級別に集計しているか
  - (4-b) 進行度がIA期のがんの割合を検診機関別に集計しているか
  - (4-c) 進行度がIA期のがんの割合を過去の検診受診歴別に集計しているか
- (5) 陽性反応適中度を集計しているか
  - (5-a) 陽性反応適中度を年齢5歳階級別に集計しているか
  - (5-b) 陽性反応適中度を検診機関別に集計しているか
  - (5-c) 陽性反応適中度を過去の検診受診歴別に集計しているか

## 8. 地域保健・健康増進事業報告

- (1) がん検診結果や精密検査結果の最終報告（地域保健・健康増進事業報告）を行っているか
- (2) がん検診の結果について、地域保健・健康増進事業報告の全項目を計上できるよう、委託先（検診機関（医療機関）、医師会など）に報告を求めているか
  - (2-a) 委託先からの報告内容が地域保健・健康増進事業報告を網羅できていない場合、改善を求めているか※  
※ 今年度は網羅できている場合：網羅できていない場合には改善を求めるような体制を有しているか
- (3) 精密検査結果について、地域保健・健康増進事業報告の全項目を計上できるよう、委託先（検診機関（医療機関）、精密検査機関、医師会など）に報告を求めているか

- (3-a) 委託先からの報告内容が地域保健・健康増進事業報告を網羅できていない場合、改善を求めているか※
- ※ 例えば、組織診の結果の記載が HSIL のみだった場合は、その後 CIN2、CIN3 に再区分されていないかを確認する体制を有しているか
  - ※ 今年度は網羅できている場合：網羅できていない場合には改善を求めるような体制を有しているか

## 9. 検診機関（医療機関）の質の担保

解説（再掲）：

- ① このチェックリストにおける「検診機関」は、委託形態にかかわらず、実際の検診を行う個々の検診機関（医療機関）を指す
  - ② 市区町村が単独で実施できない項目については、関係機関（都道府県、検診機関、医師会等）と連携して行うこと※
  - ③ このチェックリストをもとに調査を行う場合、市区町村が把握できない項目については、関係機関（都道府県、検診機関、医師会等）に確認して回答すること※
- ※ 特に個別検診の場合

- (1) 委託先検診機関（医療機関）を、仕様書の内容に基づいて選定しているか※
  - ※ もしくは仕様書の代わりに、自治体（都道府県/市区町村）の実施要綱等の遵守を選定条件としてもよい
- (1-a) 仕様書（もしくは実施要綱）の内容は、「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」<sup>注2</sup>を満たしているか
- (1-b) 検診終了後に、委託先検診機関（医療機関）で仕様書（もしくは実施要綱）の内容が遵守されたことを確認しているか
- (2) 検診機関（医療機関）に精度管理評価を個別にフィードバックしているか※
  - ※ 冒頭の解説のとおり、市区町村が単独で実施できない場合は、関係機関（都道府県、検診機関、医師会等）と連携して行うこと。下記(2-a)、(2-b)、(2-c)も同様
- (2-a) 「検診機関用チェックリスト」の遵守状況をフィードバックしているか
- (2-b) 検診機関（医療機関）毎のプロセス指標値を集計してフィードバックしているか
- (2-c) 上記の結果をふまえ、課題のある検診機関（医療機関）に改善策をフィードバックしているか

注1 「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書、別添6参照

注2 「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書、別添8の改定版（国立がん研究センター、平成31年3月公表）参照

(参考3) 国立研究開発法人国立がん研究センター「事業評価のためのチェックリスト」(平成28年改訂版)から引用

## 子宮頸がん検診のためのチェックリスト【都道府県用】

### 1. 生活習慣病検診等管理指導協議会の組織・運営

- (1) 子宮がん部会は、保健所、医師会、がん検診関連学会に所属する学識経験者、臨床検査技師等子宮頸がん検診に係わる専門家によって構成されているか
- (2) 子宮がん部会は、市町村が策定した検診結果について検診が円滑に実施されるよう、広域的見地から医師会、検診実施機関、精密検査機関等と調整を行っているか
- (3) 年に1回以上、定期的子宮がん部会を開催しているか
- (4) 年に1回以上、定期的生活習慣病検診等従事者講習会を開催しているか

### 2. 受診者の把握

- (1) 対象者数(推計を含む)を把握しているか
- (2) 受診者数を把握しているか
  - (2-a) 受診者数(率)を年齢階級別に集計しているか
  - (2-b) 受診者数(率)を市町村別に集計しているか
  - (2-c) 受診者数を検診実施機関別に集計しているか
  - (2-d) 受診者数を過去の検診受診歴別に集計しているか<sup>注1)</sup>

### 3. 要精検率の把握

- (1) 要精検率を把握しているか
  - (1-a) 要精検率を年齢階級別に集計しているか
  - (1-b) 要精検率を市町村別に集計しているか
  - (1-c) 要精検率を検診実施機関別に集計しているか
  - (1-d) 要精検率を過去の検診受診歴別に集計しているか<sup>注1)</sup>

### 4. 精検受診率の把握

- (1) 精検受診率を把握しているか
  - (1-a) 精検受診率を年齢階級別に集計しているか
  - (1-b) 精検受診率を市町村別に集計しているか
  - (1-c) 精検受診率を検診実施機関別に集計しているか
  - (1-d) 精検受診率を過去の検診受診歴別に集計しているか<sup>注1)</sup>
- (2) 精検未把握率を把握しているか<sup>注2)</sup>

### 5. 精密検査結果の把握

- (1) がん発見率を把握しているか
  - (1-a) がん発見率を年齢階級別に集計しているか
  - (1-b) がん発見率を市町村別に集計しているか
  - (1-c) がん発見率を検診実施機関別に集計しているか
  - (1-d) がん発見率を受診歴別<sup>注1)</sup>に集計しているか
- (2) 上皮内がん割合<sup>注3)</sup>(発見がん数に対する上皮内がん数)を把握しているか
  - (2-a) 上皮内がん割合を年齢階級別に集計しているか
  - (2-b) 上皮内がん割合を市町村別に集計しているか
  - (2-c) 上皮内がん割合を検診実施機関別に集計しているか
  - (2-d) 上皮内がん割合を受診歴別<sup>注1)</sup>に集計しているか
- (3) 微小浸潤がん割合<sup>注4)</sup>(発見がん数に対する微小浸潤がん数)を把握しているか
  - (3-a) 微小浸潤がん割合を年齢階級別に集計しているか
  - (3-b) 微小浸潤がん割合を検診実施機関別に集計しているか
  - (3-c) 微小浸潤がん割合を受診歴別<sup>注2)</sup>に集計しているか
- (4) 陽性反応適中度を把握しているか
  - (4-a) 陽性反応適中度を年齢階級別に集計しているか
  - (4-b) 陽性反応適中度を市町村別に集計しているか
  - (4-c) 陽性反応適中度を検診実施機関別に集計しているか
  - (4-d) 陽性反応適中度を受診歴別<sup>注1)</sup>に集計しているか
- (5) 発見子宮頸がんについて追跡調査を実施しているか
  - (5-a) 発見子宮頸がんの追跡所見・病理所見について把握しているか
  - (5-b) 発見子宮頸がんの予後調査(生存率・死亡率の分析など)を実施しているか

## 6. 偽陰性例(がん)の把握

- (1) 受診者の追跡調査や地域がん登録等により、検診受診後の子宮頸がんを把握しているか
- (2) 検診受診後2年未満に発見された子宮頸がん(偽陰性例)を把握しているか
- (3) 検診受診後2年以上経過してから発見された子宮頸がんを把握しているか

## 7. がん登録への参加(実施地域のみ)

- (1) 地域がん登録を実施しているか
- (2) 地域がん登録に対して、症例を提供しているか
- (3) 偽陰性例の把握のために、地域がん登録のデータを活用しているか
- (4) 予後の追跡のために、地域がん登録のデータを活用しているか

## 8. 不利益の調査

- (1) 検診受診後6ヶ月(1年)以内の死亡者を把握しているか
- (2) 精密検査による偶発症を把握しているか
- (2-a) 治療が必要な中等度以上の出血例を把握しているか
- (2-b) その他の重要な偶発症(感染症等)を把握しているか

## 9. 事業評価に関する検討

- (1) チェックリストに基づく検討を実施しているか
- (1-a) 個々の市町村のチェックリストについて把握・検討しているか
- (1-b) 個々の検診実施機関のチェックリストについて把握・検討しているか
- (2) 要精検率等のプロセス指標に基づく検討を実施しているか
- (2-a) プロセス指標について、全国数値との比較や、各市町村間、検診実施機関間でのばらつきの確認等の検証を実施しているか
- (2-b) プロセス指標において問題が認められた市町村から、聞き取り調査等を実施しているか
- (2-c) プロセス指標において問題が認められた検診実施機関から、聞き取り調査等を実施しているか
- (3) チェックリストやプロセス指標において問題が認められた検診実施機関に対して、実地による調査・指導等を実施しているか
- (4) 実地調査等により不適正な検診実施機関が認められた場合には、市町村に対して委託先の変更を助言するなど、適切に対応しているか

## 10. 事業評価の結果に基づく指導・助言

- (1) 事業評価の結果に基づき、指導・助言等を実施しているか
- (1-a) 事業評価の結果を報告書に取りまとめ、市町村や検診実施機関に配布しているか
- (1-b) 事業評価の結果について、市町村や検診実施機関に対する説明会を開催しているか
- (1-c) 事業評価の結果に基づき、市町村や検診実施機関に対して個別の指導・助言を実施しているか
- (2) 事業評価の結果を、個別の市町村や検診実施機関の状況も含めて、ホームページ等で公表しているか

注1) 初回受診者(初回の定義は過去3年間に受診歴がない者)及び逐年検診受診者等の受診歴別

注2) 未把握は、精検受診の有無が分からないもの。および(精検受診したとしても)精検結果が正確に分からないもの  
全て。本報告書(今後の我が国におけるがん検診事業の在り方について 報告書 平成20年3月)別添6参照

注3) 上皮内がんは、がんの浸潤が子宮頸部の上皮内のみ留まるもの

注4) 微小浸潤がんは、病期 Ia1 および Ia2 期のもの